

倫理委員会（議事概要）

国立病院機構 東近江総合医療センター

日時・場所	令和3年6月14日（月） 17:50～18:25 きらめきA
構成員	(委員長) 目片副院長 (委員) 内科診療部長、外科診療部長、石河産婦人科医長、 薬剤部長、看護部長、事務部長、企画課長 (外部委員) リモート参加 山 びわこ学院大学 准教 古川 ふるかわ社労士事務所 代表 藤澤 浄光寺 住職 (オブザーバー) 院長 (事務局・書記) 管理課長
議 事 概 要	
<p>(1) 申請課題について</p> <p>①3-02申請者：川瀬正裕（南6病棟看護師長）</p> <p>課題名：ナラティブを用いた看護管理者としての語りを経験して</p> <p>概要：令和3年度の看護師長会では、ナラティブを用いた語りの勉強会を毎月開催した。本研究は、ナラティブの経験を通してコミュニケーションを充実させ、看護管理能力の向上につなげるもの。</p> <p>審査判定：承認</p> <p>(意見) ・患者との関係、看護師と看護師長との関係について、ナラティブを理解して、自身の管理下に影響する事柄を纏めることが出来ればいいと考える。</p> <ul style="list-style-type: none">・結論としてナラティブが有効というのは出たが、何が具体的なのか判らないが、倫理的には問題はない。・ナラティブという言葉を使う前から接し方や話し方、関わり方があったものであり、患者をどの様に看護するのかを見極めることは大切であるが、思いを話すナラティブはどうなのか。・看護師同士の看護感を出しあって、皆で意識を高めていく事は結構なことである。・医療はエビデンス・ベイスト・メディシン（EBM、根拠に基づいた医療）で有効とされる医療技術を患者の病状や副作用を考慮し、患者の価値観や意向を取り入れ、医師の経験を活かして決めることが望ましく、その対極にナラティブ・ベイスト・メディシン（NBM、物語に基づいた医療）があり、患者が語る病気になった理由や経緯、病気についての考えなどの「物語」から、医師は病気の背景や人間関係を理解し、患者の抱えている問題に対して全人的（身体的、精神・心理的、社会的）にアプローチしていこうとする臨床手法である。NBMは患者との対話と信頼関係を重視し、サイエンスとしての医学と人間同士の触れあいのギャップを埋めることが期待されている。 <p>②3-03申請者：川瀬正裕（南6病棟看護師長）</p> <p>課題名：新型コロナウイルス感染症病棟の入院患者の傾向と開棟前の準備から現在</p>	

までの取り組みについて振り返る

概要：新型コロナウイルス感染症病棟に入院した患者125名の入院記録を集計して、傾向を明確にすると共に、開棟前の準備から現在までの取り組みについて振り返るもの。

審査判定：条件付き承認

- (意見)
- ・研究目的を「振り返り」から「評価」へ修正すること。
 - ・収集する住所は医療圏と修正するとともに、医療圏が判る地図を添付すること。
 - ・オプトアウトに関して、目的が「振り返る」となっているが「活かします」や「看護のあり方について検討する」とした方が良い。
 - ・研究の成果について、振り返るが目的では結果が多く出てくるので、目的がどうなのか、研究に向かった方が良いと考える。

③3-04申請者：続宗敬子（副看護師長）

課題名：パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）強化のための活動報告

概要：PNSを導入して4年目を迎えるが、その効果について検討するため、各部門の看護師190名に実施したPSN役割評価、職務満足度調査を分析し、効果と課題を明確にするもの。

審査判定：承認

- (意見)
- ・PNSのメリットとして、安全な医療、離職率の低下が挙げられる。
 - ・チームリーダー等、誰と誰が評価するのか、誰か判らない者として評価を考えている。データ処理後は誰が誰か判らなくしている。
 - ・スタッフを育てることを目的としたのに、リーダーが育っていない問題が結果となっているのではないか。
 - ・調整が出来ていないため残業が多くなっているのではないか。
 - ・全体的に論点が判るように整理したらよいのではないか。
 - ・自己評価と副師長の判断との乖離はどのようなものか。主観で行う評価は難しいので、フィードバックすることで改善が図れるのではないか。

(2) その他

次回開催日について

令和3年7月12日（月）受託研究審査委員会終了後

以 上